

一、一般情勢報告

はし が き

前年度の大會から本年度の大會にいたる（昭和五年後半期及び昭和六年度の最近まで）過去一年有半は極めて目まぐるしい社會的經濟的的政治的の變動を惹き起した。それは一口にいへば、世界及び日本資本主義の内部的矛盾が新しき發展の様相を現はしたものであり、その代表的なものは世界恐慌の激化である。それは當然に、一方では資本の集中、獨占の顯著なる發展を來したが、他方、我々の陣營にあつは、失業と賃銀切下げと中産階級の零落によつて、貧乏と餓死の空前の一大推移をもたらした。階級對立と階級闘争は、いよいよ尖鋭化して來た。世界及び日本資本主義は、いまや、この内部的矛盾の爆發によつて、一次危機の前に立つてゐる。

勿論、此矛盾は今更事新しく始まつたわけのものではない。二十世紀に入つて加速度的に發展した世界資本主義は、歐洲大戰を契機として、この内部的矛盾を白日の下に曝露した。この矛盾は、各資本主義國內に於ける勞資間の階級對立の激化、各植民地に於ける被抑壓民族の反抗運動の尖鋭化、各資本主義國家間に於ける對立の尖鋭化となつて發展した。歐洲大戰後、世界資本主義は相對的安定の時期を經過して、その間一時的安定を見たがこの相對的安定の時期に於て、内部的矛盾は急速に擴大して行つて、世界資本主義は新たな危機

に突入した。この危機は、一昨年（一九二九年）秋のアメリカ合衆國の取引所恐慌によつて決定的なものとなり、世界資本主義は所謂「戦後第三期」の段階に進入した。

我々は、昨年六月の創立大旨に當つて、我が全國労働はそのよつて立つ客觀的情勢が「戦後第三期」の新しき段階にあることを適確に認識して、其大勢を豫斷し、其發展の傾向を明示して來た。これらの諸傾向は我が全國労働の運動方針を規定する客觀的情勢として採り入れられ今日に至つてゐる。詳細は「労働組合は如何に闘ふか」中の運動方針の世界資本主義の大勢、日本資本主義の諸情勢、日本労働組合運動の情勢の項に於て述べてゐるから、こゝには重複を避ける爲に省略する。要するに、其後最近一年半の情勢の推移は、この我等の規定した傾向が正しかつた事を裏書するものである。我々は、こゝでは其後の具體的發展について概観しておかう。

一、世界資本主義の情勢概観

(一) 世界恐慌の發展

一昨年（一九二九年）秋のアメリカの恐慌によつて決定的となつた世界恐慌の新しき波は、たちまち歐洲から東洋に波及した。昨年夏には主要原料國をはじめ重要工業國は恐慌状態に陥り、最後まで景氣の國として残つたフランス、デンマーク、ノールウェー、アイルランド自由國なども昨年末までには世界恐慌の渦中に捲き込まれた。本年に進入つては、ソ